



2009/9/3(木)・4(金)

## 湖東地域で宿泊研修を実施しました!

発行日:2009/10/01 発行元:里親学生支援室

1日目の午前は、近江八幡市の出張診療所が設けられている「沖島」を訪れ、独自の自然と文化を持つ島の人々の生活ぶりについて、地元ボランティアガイドの方から説明を受けながら島内を見学しました。午後からは、古くからの街並みや八幡堀(水郷)で有名な新町通りなどを中心に近江八幡市内を散策した後、効率的な医療を提供すべく2006年10月に前身の近江八幡市民病院から新たに生まれ変わった「近江八幡市立総合医療センター」を訪問し、施設の概要についてのお話をうかがい、見学を行いました。

また、宿泊施設では、交流会として、地域で活躍されている診療所の先生方や東近江市役所の方をお招きし、地域医療の現状について貴重なお話を聞かせていただいた後、里親・プチ里親の方々も交えて、意見交換・懇談を行いました。

2日目には、病院再編が議論されている東近江市立の「能登川病院」と「蒲生病院」の外観を見学した他、午前は、一般急性期から終末期まで幅広く対応できる体制が整っている「ヴォーリズ記念病院」で日頃の医療活動についてのお話をうかがった後、病棟・ケアハウス・2006年に開設したホスピス等を案内していただきました。午後からは、国の選択無形民俗文化財に指定されている大風の歴史を展示した「八日市大風会館」を訪れた後、東近江市の中核病院である「国立病院機構滋賀病院」では、医師不足によりやむなく閉鎖している病棟や、普段目にするのではない手術室に至るまでじっくりと見学させていただきました。学生たちが今後の自分たちの役割を考える大変貴重な経験となりました。

滋賀県生まれ、滋賀県育ちの私でしたが、今回の研修では初めて見る滋賀県もありました。同じ県内でも、これほどまでに医療に格差があるのだと知り、驚きとともになんとかしなければならぬと焦りを感じました。<看護学科1年>

滋賀県の医療の現状、システムなどを見ることができ、また現場も見学させてもらえて、将来医療人になることに対するモチベーションが高まりました。<医学科2年>

学生の感想文(抜粋)より



ヴォーリズ記念病院



滋賀病院・休棟中の病棟にて



国立病院機構滋賀病院にて

この研修を通して、滋賀県の医療の現状がはっきりとわかったし、その危機的状況を回避する力を持っているのが、僕たちであるということもはっきりとわかった。<医学科1年>

沖島はココ!! 堀切漁港から船で約15分

一番印象的だったのが、滋賀病院の3階の内科病棟が休棟になってしまっていたことです。将来医師になって、このような医療崩壊を防ぐために少しでも貢献したいと思いました。<医学科1年>

近江八幡市立総合医療センターにて



今回の研修は、医師不足や医師の偏など現在の医療問題を考える良いきっかけになりました。私は、滋賀病院のように医師を求めているような病院でいつか働きたいです。<医学科2年>



交流会の様子



石塚先生のお話は特に印象的でした。仕事と家庭を見事に両立されているお姿は、今後同じような道を歩む私たちにとって、大きな励みそして目標になりました。医師という仕事のやりがい、そして人と人とのつながりの大切さを見つめなおす、大変有意義な研修でした。<医学科1年>

里親プログラムで最も気に入っている点は、現役の医師や看護師さんをはじめ、患者さんや多くの人と交流を持つ機会がたくさんあることです。<看護学科1年>

今回の研修は、時間を忘れてしまうほど充実した研修でした。私は改めてこのような医療の場で看護師として働きたいと感じました。<看護学科1年>



沖島にて



八日市大風会館にて

今回の研修先は近江八幡市 & 東近江市

今回の研修の様子が新聞に掲載されました!!

○ 朝日新聞(滋賀版) 9月4日(金)

○ 京都新聞(滋賀版) 9月11日(金)

里親GPのホームページ (<http://satooya.shiga-med.ac.jp/>) に記事を掲載しています。